

地理学会ニュース 2023年度 第2号

法政大学地理学会

2023年8月28日発行

法政大学地理学会 2023年度の第1回例会 (日帰り巡検) についてのお知らせ

●テーマ：土石流災害からの復興および中心市街地活性化の現状をみる

●日程：2023年9月23日(土)

●方式：対面形式

●集合場所：JR 熱海駅改札前

●集合時間：10:00

●解散場所：JR 網代駅(伊東線)(予定)

●解散時間：16:30(予定)

●案内者：吉原圭佑、佐々木星弥、小原丈明
(集会委員)

●参加費用：4,000円(まち歩き案内料金、施設入館料金)

※現地までの交通費ならびに現地での交通費、昼食代などは各自で支払っていただきます。なお、時間の節約のため、現地での交通費の支払いは極力交通系ICカードでお願いします。

●定員：20名(先着順)

●申し込み：2023年9月15日(金)までに、当学会ウェブサイトの「学術大会・イベント」のページ (<https://hoseichiri.ws.hosei.ac.jp/>)

meeting)の巡検申込フォームよりお申し込みください、なお、申し込みの際は必ず添付ファイルが受け取れるメールアドレスを記載してください。

●主な見学場所(予定)：伊豆山地区の土石流災害地、熱海市中心市街地(銀座商店街、本町商店街など)、起雲閣、江戸城石垣旧石丁場(石切場)(小山海岸、小山臨海公園)など。

●趣旨説明：今年度の第1回例会(日帰り巡検)は静岡県熱海市を対象地域として、観光地の現状について考えたいと思います。

温泉観光地として有名な熱海は、かつては職場や町内会などの団体旅行(マス・ツーリズム)の目的地として多くの集客がありました。しかし、1990年代以降、日本における観光の形態が団体旅行から個人旅行など(オルタナティブ・ツーリズム)に変化したことを受けて、熱海では観光客が激減したことにより、観光産業によって支えられていた地域経済が弱体化し、ホテルなどの多くの宿泊施設の経営状況が厳しい状態となり、また中心市街地では空きテナント等が目立つ状況となりました。

そのように熱海では衰退した状況にありましたが、2010年代にはいと、各種イベントの開催や中心市街地の空きテナントの活用などの取り組みを通じて、熱海の活性化が図られていきました。また、個人旅行客の増加だけでなく、インバウンド観光客の増加により、観光地としての熱海も人気を取り戻しつつあります。今回の巡検では、上記のような熱海を中心市街地の活性化や観光客の増加に寄与しているNPO法人にまち歩きの案内を行ってもらいな

がら、これまでの活性化の取り組みやコロナウイルス後の熱海の現状、今後の課題や方向性について学びたいと考えています。

次に、今回の巡検では、2021年7月に発生した熱海市伊豆山の土石流災害の現場にも訪れたいと思います。この災害については地理学分野をはじめとしてさまざまな分野で研究がなされ、多くの報告書等が出されています。それらの報告書の内容を踏まえつつ、現地にて災害の状況を確認するとともに、現状での復興過程について実見したいと思います。

最後に、今年のNHK大河ドラマ「どうする家康」に関連する内容ですが、江戸城の石垣に使用された石を切り出した「石丁場」も見学する予定です。江戸城の石垣には伊豆半島各地で採掘された石が使用されており、同半島には多くの「石丁場」の遺跡が存在しています。それらの遺跡の多くは山中などアクセスの困難な場所に位置しているため、多くの痕跡が確認できる遺跡を訪問することはできませんが、今回は比較的アクセスが良く、複数の痕跡が確認できる熱海市網代の小山海岸および小山臨海公園を訪れます。

●注意事項：新型コロナウイルスの5類感染症への移行を受け、ワクチン接種の実施やPCR検査・抗原検査の陰性などの参加条件を設けることはしませんが、巡検の当日およびその周辺の時期に発熱等の症状がある方は参加を見合わせていただくようお願いいたします。

今年度の巡検においても多くの距離を歩くことになるので、必ず歩きやすい靴や服装でご参加ください。なお、上記の見学場所は現時点での予定であり、今後変更の可能性があります。また、実際の見学先によっては、解散場所を変更することもあります。

また、上述の通り、伊豆山の土石流災害の現場も訪問します。同地域では現在も立入禁止区域が設定され、復興のための工事が行われており、いまだ多くの方が再建の途上である状況です。つきましては、同地を訪問する際には住民の方が不快な気持ちにならないよう行動するようご注意ください。

巡検の詳細は、改めて参加者にメールにてお知らせするので、参加を申し込む際には、必ず

メールアドレスをご記入ください。なお、巡検に必要な資料をメールの添付ファイルで配布することも考えていますので、必ず添付ファイルの受信可能なメールアドレスを記入してください。

(集会委員会)

法政大学地理学会 2023年度の第2回例会 (シンポジウム) についてのお知らせ

- テーマ：関東大震災100年 大地震と都市空間 ～過去に学び、近未来を描く～
- 日程：2023年10月21日(土)
- 時間：13:00～17:00(予定)
- 方式：対面形式(オンライン配信は行いません)
- 場所：法政大学市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート棟4階 G402教室
- 参加費：無料
- 申し込み：事前申し込み不要(直接会場にお越しください)
- 主催：法政大学地理学会および法政大学江戸東京研究センターによる共催
- プログラム：
 - 13:00～14:00 基調講演「関東大震災と東京の復興—建築・景観・思想・コミュニティー」(法政大学名誉教授・江戸東京研究センター特任教授 陣内秀信(建築史・都市史))
 - 14:10～14:40 報告1「地形、地質、歴史記録からみた関東地震の履歴と将来予測」(国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター連携推進室国内連携グループ研究グループ長 宍倉正展(地震学))
 - 14:40～15:10 報告2「関東大震災と丸の

内・内幸町—東京経済と三菱における地所経営の変容—(九州大学経済研究院准教授 鷺崎俊太郎(日本経済史・経済地理学))

15:10~15:40 報告3「故郷喪失から新たな故郷へ—芥川龍之介、堀辰雄、立原道造の関東大震災経験—(法政大学国際文化学部教授・江戸東京研究センター兼担研究員 岡村民夫(表象文化論))

15:40~15:55 休憩

15:55~16:10 宍倉報告コメント(法政大学文学部教授 前杢英明(地理学))、鷺崎報告・岡村報告コメント(法政大学文学部教授・江戸東京研究センター長 米家志乃布(歴史地理学))

16:10~17:00 全体討論

●趣旨説明:今年、1923年に発生した関東大震災から100年目を迎えます。そのため、学界では日本学術会議による学術フォーラムをはじめとして、多くのイベントが開催されます。本学会でも関東大震災に関連する例会を企図していたところ、本学会の常任委員であり、本学の江戸東京研究センターのセンター長でもある米家志乃布会員の提案により、本学会と江戸東京研究センターとの共催で今回のシンポジウムを開催することになりました。

「関東大震災100年 大地震と都市空間～過去に学び、近未来を描く～」のテーマでシンポジウムを共催するにあたり、それぞれの組織から演者を選定し、幅広い観点から本テーマについて読み解くことにしました。江戸東京研究センター側からは、建築史・都市史の分野を代表して陣内秀信氏に、そして表象文化論の分野を代表して岡村民夫氏にご講演・ご報告を行っていただきます。特に、陣内氏は建築史・都市史の立場から長年にわたり東京研究を進めてこられ、関東大震災後の東京の復興や変貌についても精通しておられることから、同氏には基調講演をお願いしています。

一方、本学会側からは、地震学や自然地理学の分野を代表して、本学文学部地理学科の兼任講師でもある宍倉正展氏に、そして日本経済史や経済地理学、歴史地理学の分野を代表して鷺崎俊太郎氏にご報告いただきます。宍倉氏は災害史に精通しておられ、また鷺崎氏は企業、と

りわけ三菱財閥の土地経営を中心とする経営史・経済史に関する多くの研究蓄積を有しておられます。幅広い観点からアプローチすることを強みとする地理学を体現する形で、本学会としてはお二方にご報告をお願いした次第です。

以上4氏のご講演・ご報告、ならびに前杢会員や米家会員によるコメントを受けて、最後には全体討論を行いますので、ご参加いただく皆さんも積極的に討論にご参加いただきたいと思います。

(集会委員会)

会計委員会より

会費を滞納されている方にお知らせ致します。本会は3年以上滞納されたら会誌等の発送を停止しております。また滞納期間が5年に達しますと、自動的に除籍する対応を取っております。会費納入状況につきましては、学会から送付される郵便物のラベルシールにてお知らせしておりますのでご確認ください。会員各位におかれましては、住所変更等で学会からの連絡が届かず、結果として会費滞納状態になっている方もいらっしゃると思います。住所変更等がありましたら、かならず学会にお知らせいただきますようお願い致します。また、法政大学文学部地理学科通学課程以外の学生会員は、卒業後は継続して一般会員となります。卒業された学生会員はメール等でお知らせ下さい。メールアドレスの登録を推進しております。学会ウェブサイトより学会メールを利用してお知らせください。

会員動向(2023.6.1~2023.8.8まで。敬称略、申し込み順)

【入会】6名

- ・[一般] 松永朋樹(東京)、吉川 剛(新潟)、内田裕貴(東京)
- ・[学生] 野城美和(神奈川)、米川成紹(東京)、丸山信彦(東京)

通常払込料金加入者負担への変更について

2023年度から綴込の払込取扱票が赤色の通常

払込料金加入者負担用のものに変更いたしました。この払込取扱票を利用して、ゆうちょ銀行の通帳もしくはキャッシュカードで払込の手続きをすれば、通常払込料金が無料となります。ただし、ATMでも窓口でも現金で払込手続きをすれば手数料が110円かかりますのでご注意ください。

法政大学地理学会「地理学研究奨励金」制度について

学会では、創立70周年を記念し「地理学研究奨励金」を設けています。

- 1 審査対象になる論文は、本学学生会員および大学院生が投稿し「法政地理」に掲載された論文です。
- 2 学士論文、修士論文をベースにした場合、学位論文を提出した翌年度までの「法政地理」に掲載された論文が対象です。
- 3 来年3月に発行予定の「法政地理56号」に掲載される論文が対象になります。
- 4 論文が審査対象になるためには、地理学研究奨励金授与選考委員会に応募が必要です。
- 5 「法政地理56号」に掲載される予定の論説、研究ノートの執筆者は、ぜひ審査にご応募ください。

問い合わせ、連絡先
法政大学地理学会 副会長
地理学研究奨励金授与選考委員会委員長
大塚一雄 kotsuka415@gmail.com

<2023～2024年度・法政大学地理学会役員>

会長：伊藤達也
副会長：大塚一雄・中村圭三
監査：木村成彦・小山伸樹
常任委員長：加藤美雄
常任委員：佐々木達・前杢英明・小原丈明・齋藤圭・米家志乃布
庶務委員会／佐々木達（委員長）
会計委員会／前杢英明（委員長）・塩谷恭正
集會委員会／小原丈明（委員長）・王操・佐々木星弥・藤本健人・吉原圭佑
広報委員会／齋藤圭（委員長）
編集委員会／米家志乃布（委員長）・宇津川喬子・中田輝男・前畑明美

評議員：宇津川喬子（東京）・片岡義晴（千葉）・加藤美雄（千葉）・狩野真規（東京）・小寺浩二（東京）・小原丈明（東京）・米家志乃布（京都）・近藤章夫（神奈川）・齋藤圭（大分）・塩谷恭正（千葉）・千葉晃（東京）・永保敏伸（神奈川）・中俣均（新潟）・中山秀晃（東京）・羽田麻美（沖縄）・前畑明美（東京）・前杢英明（東京）・安森直輝（東京）・山口隆子（東京）・吉原圭佑（東京）

2023年8月28日発行
編集 法政大学地理学会庶務委員会
発行 法政大学地理学会常任委員会
〒102-8160
東京都千代田区富士見2-17-1
法政大学文学部地理学教室内
Fax. 03-3264-9459
E-mail hoseichiri@chiri.info
Web <http://www.chiri.info/index.html>
郵便振替 00170-9-167442